

## 令和元年度 第1回うつのみや産業振興協議会 議事録(要旨)

- 1 日 時 令和元年8月20日(火) 午前10時00分～11時50分
- 2 場 所 宇都宮商工会議所 常議員会室
- 3 議 事 (1) 意見交換  
「うつのみや産業振興ビジョン(平成29年度改定)」の進捗と評価について
- 4 出席者  
【委員】 宇都宮機器株式会社 若色委員  
キヤノン株式会社 清水委員  
株式会社SUBARU 航空宇宙カンパニー 柳田委員  
株式会社オニックスジャパン 大西委員  
株式会社東武宇都宮百貨店 守委員  
東日本電信電話株式会社 長谷部委員  
株式会社JTB 北上委員  
サイクルスポーツマネージメント株式会社 柿沼委員  
株式会社サッカークラブ 橋本委員  
宇都宮商工会議所 檜原委員<副会長>  
特定非営利活動法人宇都宮まちづくり推進機構 須賀委員<会長>  
公益財団法人栃木県産業振興センター 横塚委員  
株式会社あしぎん総合研究所 豊田委員  
国立大学法人宇都宮大学 産学イノベーション支援センター 横田委員  
栃木労働局 鈴木委員  
宇都宮市経済部 大竹委員 (順不同)

- 【事務局】〔経済部〕鈴木次長, 大根田次長(農政担当)  
〔産業政策課〕小島課長, 山口課長補佐,  
田中係長, 磯係長, 鈴木総括, 吉成主任主事  
〔商工振興課〕篠崎課長  
〔観光交流課〕塩田課長  
〔都市魅力創造課〕池羽課長  
〔農業企画課〕岡田課長  
〔農林生産流通課〕大島課長

## 5 主なご意見

### 【施策1】本市産業を発展させる新事業、成長産業の振興について

- ・LRTについて、単なる交通手段としてではなく、市民または市外の人々にまちづくりの仕掛としてどのように訴求していくか関心は高い。
- ・製造業では、景況感の先行き不透明から世界の企業（メーカー）が投資を先送りにしている。
- ・ドローンなどを次世代モビリティとして普及させるには法制や環境整備が必要である。
- ・IoT、IoEの時代になっていく中で、人的作業の自動化は大きな課題だと考えている。
- ・起業に関しては、企業に就職後、起業するというような流れが望ましい。

### 【施策2】産業集積を高める企業の立地・定着の促進について

- ・宇都宮市内への企業立地ニーズは高いが、市内に立地できる用地が無く、市外へ立地する状況になっている。
- ・女性の求人で最も多い業種は事務系であることから、オフィス系企業の積極的な誘致が必要である。

### 【施策3】本市産業を支える中小・小規模企業、地場産業等の振興について

- ・現在の世界貿易の状況を見ると、潮目が大きく変化しており、以前と比較して状況は悪い状態になっている。・中小企業が抱える課題は、規模格差や事業承継、廃業・倒産など多岐わたっており、特に10人以下の小規模の企業は、行政支援にも手が挙げづらい状況から、きめ細やかな支援（伴走支援）が必要である。
- ・支援ニーズとしては、事業承継や退職者への対応ニーズが高まってくる。・小売業については、ネット販売の普及などにより店頭販売が厳しい状況にあるが、「モノ」を売っていくことだけではなく、「コト」を売っていくことが重要である。
- ・消費税増税前の駆け込み需要で、高額商品の購入が上がっている状況にある。
- ・消費税増税への対策は時限的なものであるため、景気の停滞が後ろにずれるのではないかと考えている。
- ・企業は生産性向上のため、ICTの活用促進に取り組んでいるが、導入・活用の判断が出来ないところがある。
- ・企業へのICT導入については、実事例を理解してもらい、効果を「見える化」するのが重要である。
- ・企業のICT活用実験のニーズは高いと考えられることから、実験可能な「場」を創出することによって、取り組んでいく企業は増加すると考えている。
- ・小規模企業のICTを活用した自動化は、費用対効果が問題になってくる。

#### 【施策4】地域資源を最大限に活かす産業の総合力の向上について

- ・スポーツを産業として見ている自治体と、見ていない自治体に分かれてきたと感じる。
- ・自治体や地域と一緒に取組んでいるクラブは、産業として投資価値が高いため、活動の充実に力を入れていく必要がある。
- ・スポーツを産業で見ると、商品としては「モノ」ではなく「コト」になる。
- ・宇都宮市という地理的環境の優位性を活かして、産業振興に取り組むことが必要である。
- ・オリンピック・パラリンピックについては、宿泊客数が大宮を超えて宇都宮市まで波及することが考えられるため、ビジネスチャンスだと考えている。
- ・より宿泊客数を増加させるためには、東京まで50分で行けることや、都内の宿泊費より安価なところなど、宇都宮市ならではの魅力を発信するPR戦略が重要である。
- ・インバウンドについては、夜のエンターテインメントや早朝でないとは体験できないものなど、宇都宮市に宿泊しなくてはいけない理由を作ることが重要である。
- ・MICEについては、2020年4月に開業する「群馬メッセ」と、立地条件、アクセス条件もほぼ同じ状況の中、競争になってくることから早期の「誘致」体制構築が重要である。
- ・MICEの誘致体制では、今から商工会議所や経済界などと体制と整備しなければ間に合わない。

#### 【施策5】産業活動の源となる人材の確保と育成について

- ・企業の現場としては、人材確保と人材育成の両方とも大きな課題である。
- ・若者の「ものづくり離れ」が継続しており、最近はより顕著になっている。
- ・栃木県内や東京在住の学生が、宇都宮市内や栃木県内の企業へ就職できるようにするため、企業のプロモーションが重要である。
- ・産業人材のほか、まちづくり人材の育成も必要である。
- ・人材不足への対応については、生産性向上と労働力の発掘をすることだが、労働力の確保では、新たな人材確保と潜在的な人材の発掘の2種類がある。
- ・流出する若者を呼び戻すためには、宇都宮市の魅力を発信していくことが重要であり、地道に取り組む必要がある。
- ・外国人人材は、企業では関心は高いが、生活面の支援などが必要になってくることから、慎重な企業が多い。
- ・外国人人材がすべての労働力不足を解消するものでないことから、若者や潜在的な人材をどのように活用していくのが非常に重要である。
- ・潜在的な労働力の発掘では、高齢者や女性などの活用があるが、さらなる発掘に向けて、企業の職場環境を良くし、企業の魅力を増加させる必要がある。